

真理に年齢はない ヨハネ8:31~36 / 李正雨師

先週木曜日、興味深いニュースを見ました。長崎県対馬市にある観音寺という寺で仏像が盗まれました。この仏像は、観音寺が1953年から所有していたものとして、2012年に韓国人窃盗団に盗まれたものです。これを韓国政府が知り、泥棒から仏像を回収して保管していました。そのうち、韓国の浮石(ブソク)寺という寺から、この仏像に対する所有権訴訟が起こされました。この仏像は、1330年倭寇(八幡船)に略奪された仏像であり、仏像の中には、これについての証拠文書もあるということです。一審判決では、この証拠によって仏像の所有権が浮石(ブソク)寺にあると判決が出ました。しかし、二審判決では、観音寺が1953年から仏像を持っていたため、観音寺の所有権を認めてくれました。そして、最終判決でも二審の判決は正当だったと判断し、韓国の最高裁判所は観音寺に軍配を挙げました。

本当に面白いですね。法律的な結果はこうでした。ところが、皆様、心理的にはいかがでしょうか。仏像の中に証拠があったので、この判決は100%正当だ、真理だとは言えないでしょう。あくまでも、これは法律的な結果だけで、真理だとは言えないものだと思います。今、ガザ地区を巡って起こっている戦争も同じだと思います。ハマスがイスラエルに先制攻撃をしました。もちろん、どんな理由でも、戦争は認められないと思いますが、ハマスがイスラエルを攻撃した理由はないわけではないでしょう。今回の戦争の前には、4回にわたった中東戦争があり、さらに歴史を遡ると、第一次世界大戦と今回の戦争につながりがあるということが分かります。ドイツとイギリス、オスマン帝国と国連などが今回の戦争とつながりがあります。では、第一次世界大戦がこの戦争の出発点だったのでしょか。今回の前に起こった戦争も、またその前に起こった戦争も、今回のガザ地区戦争とつながりがあります。旧約聖書にも、このパレスチナの戦争が記録されているほどなので、この戦争の正当性や真理は、見つけることはできないと思います。さらに、イスラエルはシオニズムという思想も持っているでしょう。何が真理なのか、何を求めるべきか、不明な世界になったと思います。

このように、世の中で真理を見つけて追求するのは、本当に難しいことです。戦争だけでなく、他のことも同じでしょう。あまりにも多くのことが絡み合っていて、変化していくので、真理や真実のようなものは、この世では見つけることができないと思います。しかし、このような世界を生きる私たちに、今日の福音書は真理について語ります。そして、イエス様からの真理が人々を自由にすると言います。今日の福音書31-32節の言葉です。「イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。『わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。』」イエス様は、私たちが真理を見つげられる場所は、変化に富んだこの世ではなく、ご自分の言葉であると言われます。そしてこの言葉を通して、私たちは真実を悟り、その真理が私たちを自由にすると言われます。

多くの方は、世の中で正義と真理を求めています。今、この世で起こっている戦争だけでなく、社会全般にわたって起こっていることの中でも、正義と真理を探します。しかし、先に申し上げたように、この世で真実と正義を見つげることができません。あまりにも多くが絡み合い、すべてのことが急速に変化し、皆が合理的な理由と言いつけを持っているからです。仏像に対する判決でも、ガザ地区をめぐる戦争でも、みんながもっともらしい理由と立場に立ちました。しかし、そのようなことを真理だと見ることはできないでしょう。お互いの立場が違って、解釈も違うからです。自分の立場からは、正しいと思うかもしれませんが、他人の立場からは、正しくない可能性もあります。意見が分かれること、立場によって解釈が変わること、これを真理だとは言えません。ですから、私たちは、この世からは真理を得ることができず、同時にこの世のどんなものからも、自由を得ることができないと思います。今日の福音書33節がこれをよく示しています。「すると、彼らは言った。『わたしたちはアブラハムの子孫です。今までだれかの奴隷になったことはありません。『あなたたちは自由になる』とどうして 言われるのですか。』」

当時のユダヤ人たちは、ローマの支配を受けていました。ローマの支配の前には、いくつかの強大国の支配を受けました。それにもかかわらず、彼らは自分たちが奴隷になったことがないと言います。彼らがこのように言った理由は何でしょうか。まさに自分たちがアブラハムの子孫であるからということです。「神様の言葉どおり、アブラハムの子孫は神の子孫となり、神の子孫は奴隷になれない。」これがアブラハムの子孫という言葉が持っている意味でした。私は、異邦人である私たちは、この言葉を理解するのは難しいと思います。現実的にイスラエルは多くの国の支配を受け、何度も奴隷になったことがあるからです。しかし、彼らにとって「アブラハムの子孫」という言葉は、現実的な状況を語るものではありませんでした。アブラハムと約束された神様の言葉を思い出す理想的なものでした。創世記17章6～7節の言葉が代表的な「アブラハムの子孫」に該当する言葉です。「わたしは、あなたをますます繁栄させ、諸国民の父とする。王となる者たちがあなたから出るであろう。わたしは、あなたとの間に、また後に続く子孫との間に契約を立て、それを永遠の契約とする。そして、あなたとあなたの子孫の神となる。」

当時のラビや律法学者たちは、この言葉をよく教え、ユダヤ人たちはこの言葉をしっかりと信じていました。この「アブラハムの子孫」という言葉によって、彼らは奴隷になったことがないと思いました。さらに、彼らは自分たちがアブラハムの子孫なので、他の民族よりも優れていると思いました。それで異邦人を無視して差別し、サマリア人を同じ民族とは思いませんでした。それだけでなく、自分たちはどんな罪を犯しても、特に異邦人に対してどんな罪を犯しても許されると思いました。自分たちを選ばれた神の子孫、王の子孫であると思ったからです。これについてイエス様は、とんでもないことだと言われます。34節の言葉です。「イエスはお答えになった。『はっきり言うておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。』」

神様に選ばれたアブラハムの子孫だからといって、罪を免除されるわけではありません。罪は罪なのです。過去、文化財を略奪されたからといって、時間が経ったのに、再び盗んでくるのは、正当なことにはなりません。過去、神様が約束してくださった土地だからといって侵略することも、自分たちがアブラハムの子孫だからといって異邦人を差別することも、正当なことにはなりません。ルター時代の免罪符もこれと同じ文脈のことです。教会に天の国の鍵が与えられたからといって、教会が勝手に罪を許すことはできないのです。罪は、神のみが許されることであり、例外の対象はいません。それでイエス様は「罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である」と言われたのです。ルターは、1532年2月に今日の福音書を持って説教しました。彼は自分の説教で「真の自由は罪からの自由」と言います。もし私たちが自由になることを望むなら、私たちは肉的な自由について考えず、神様の前で自由になることと罪から自由になることに集中しなければならないというのがルターの説教でした。そして、私たちが罪から解放させられるために、何でもイエス様に任せなさいと言います。自由のために行う善い行いや苦行は、無駄なものだから、神の子に私たちが罪から解放するようにさせなさいと言います。これが今日の福音書36節の言葉です。「だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。」

私は、人間の本性の一つは、真理を求め、自由を望むことだと思います。そのため、学問というものが発展し、法律や規則よりは倫理と道徳が重視されているのだと思います。しかし残念ながら、私たちが生きるこの世では、真の真理と自由を見つけるのは難しいと思います。多くのことが絡み合っていて、隠されているからです。それで、今日の福音書は、イエス様による真理と自由について語っています。神の御子の変わらない真理、その真理による自由を語っているのです。そして、この真理と自由は、来世のためのものではありません。今、私たちの生活の中で見つけることができる真実と自由です。信仰の人は、この世でも神の御子が与えてくださる真理と自由を味わうことができるのです。この世は、急速に変化しており、その中で多くのものも激しい変化を迎えています。しかし、イエス様の真理は、このような世界でも変わりません。パウロが受け入れた真理とルターが受け入れた真理は、変わりません。韓国人である私が受け入れた真理と日本人である皆様が受け入れた真理は、変わりません。それで私たちは、この真理を味わうことができ、この真理によって自由になることができるのです。この変わらないイエス様の真理が皆様と共にありますように。皆様の生活の中で、イエス様による解放と自由がありますように、主の御名によって祈ります。アーメン